

## 小 59 香焼小 令和6年度 学力向上プラン

### 1 学校教育目標



笑顔いっぱい

元気いっぱい

やる気いっぱい

～気力・体力・学力 3つの力もちになろう～

### 2 本校の学力向上のための視点

今年度の全国学力調査と長崎県・市の学力調査の分析結果を受け、国語・算数において、課題とする領域(★)を重点指導項目とし、それぞれの教科を県・市平均値以上まで押し上げることを目標とする。

#### (1) 児童の学力に関する実態分析と対応 ※「+・-」は、県(6・5年)・市(4・3年)の平均を基準とする。

	国語の課題	算数の課題
全国 6年	「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」において、全国平均に比べ落ち込みが見られた。基礎基本に焦点を当て、繰り返しスキルトレーニングに取り組むとともに、段階に応じた読書活動の充実させる。	「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」において、全国平均に比べ落ち込みが見られた。理解力に応じた授業を進めるとともに、算数タイムを活用した個別指導に力を入れる。
県 5年	「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」において、県平均に比べ落ち込みが見られた。効果的なAIドリルの活用を進めるとともに、国語タイムの個別指導を充実させる。	「数と計算」「データの活用」において、県平均に比べ落ち込みが見られた。授業における課題解決学習を徹底するとともに、紙媒体によるスキルトレーニングの充実を図る。「図形」は、ほぼ平均程度、「変化と関係」は、平均値より上回ることができた
市 4年	「話すこと・聞くこと」は、ほぼ平均程度だったが、「書くこと」が市平均より落ち込んでいた。ねらいに即して適切に文章を書くなどの活動に力を入れていきたい。「読むこと」は、平均を上回ることができた。	「数と計算」「測定」は、ほぼ平均程度だったが、「図形」が市平均より落ち込んでいた。授業の中で、数学的活動を充実させるなど、実態に応じた手立てを工夫したい。「データの活用」は、平均を上回ることができた。
市 3年	「話すこと・聞くこと」は、市平均を上回ることができた。「書くこと」「読むこと」は、平均より落ち込んでいたので、読解力を育てる学習プリントに取り組みせるとともに、ノート活動の充実を図っていく。	「数と計算」「図形」「測定」「データの活用」において、市平均より落ち込みが見られた。授業での集中力を高めるとともに、基礎的な学習内容については、算数タイム等での個別指導を工夫していく。

#### (2) 全校共通の具体的取組み [A:担任 B:担当者] 【自己評価 ○△×】 2/3 学期

校 内 研 究	2	3
主 題 「対話力・活用力・探究力を育てる授業の実践」 副主題 ～こようぎGIGAスクールを活用した学力向上を目指して～		
A: 授業開発 (ICTを活用した上で、対話力、活用力、探究力に焦点を当てた授業を開発し、実践する。)		
A: 個別最適化 (AIドリル「キュビナ」の効果的活用)		
学 習 規 律 の 確 立	2	3
A: 「香焼スタンダード」等の各学年に応じた内容の充実を図る。		
B: 支援の必要な児童については、コーディネーターが校内委員会で対応を決定し、児童支援担当を中心に組織的に支援していく。		
幼 保 ・ 中 と の 連 携	2	3
B: 小中連携で年2回程度の相互授業参観を行い、9年間の学びの仕方を共通理解する。		
B: 幼保小連携で年2回程度の相互授業参観を行い、互いの指導法等を共通理解する。		

指導力の向上	2	3
B：研究授業後には、ワークショップ型授業研究会を設定し、職員相互の考えの良さを認め合いながら理想の授業を追究することで指導力を高める。		
A：「分かる授業」実現のため、デジタル教科書等ICTの活用を図る。		3
A：言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力を育成する。一人で考えを深める場面と共に、児童同士の話し合いをする等の様々な関わりの中で「児童同士の主体的、対話的で深い学び」を具現化する。		
A：全教科で書く活動を取り入れ、めあてや予想、授業で学んだこと、自分や友達の考え方がきちんと残るノート指導を行う。		
指導体制の充実	2	3
A：各学級で学力向上の取組を実践し、学期ごとに自己評価する。		
A：担任と少人数担当教員でT・Tや個別学習の体制をつくり、きめ細かな指導を行う。		
B：子ども寺子屋学習教室では、地域の学校サポーターの協力を得て1、2年生の基礎的な学力向上を図る。		
基礎基本の徹底・活用問題への取組み	2	3
A：「算数・国語タイム」では、基礎的な計算問題や漢字練習に取り組む。		
A：「算数・国語タイム」では、2学期（9月・11月）、3学期（2月）を強化月間として位置づけ、教育センターの「活用教材」やアシストシートを活用する。		
読書活動の推進	2	3
A：読書タイムや国語の時間を中心に、発達段階に応じた良書を選び、読む力を育てる。		
B：学校図書館司書と協力して、子ども達が興味を持って読書をしやすいような環境作りを行う。		
B：読み聞かせボランティアと連携し、児童の読書への興味・関心を高める。		
主体的に学ぶ態度の向上	2	3
A：chromebook、ipad、指導者用PC、電子黒板、書画カメラ等（ICT機器）を活用し、自ら情報を取り込み、伝える方法を工夫することで、主体的に学ぶ態度の向上を図る。		
A：児童に具体的な目標（理想の姿や思い）を持たせ、活動の過程を認めるとともに、言動や作品、数値等の変容を示すことで、自己の成長を認識させ意欲を高める。		
家庭学習習慣の定着	2	3
A：chromebookの持ち帰りを習慣化し、classroom等を活用した課題を出すことにより、個別最適な学びを実現する。		
A：香焼スタンダードを各家庭に配付し、発達段階に応じた学習時間や学習内容（チャレンジ自主学习）等の目標を保護者に示す。		
A：すべての学年で、家庭学習の内容や量、習慣づけに関して、懇談会や学級通信等で共通理解し、保護者自身が我が子の実態把握ができるようにする。		